

# これまでに認定された大崎耕土の自然共生サイト

大崎市世界農業遺産未来戦略室 三宅源行

## 1. 自然共生サイトとは

自然共生サイトとは、ネイチャーポジティブの実現、30by30 達成に向けた取組の一つとして「民間の取組によって生物多様性の保全が図られている区域」を国が認定する区域のことです。令和5年度から環境省が認定してきました。認定区域は、国立公園等の保護地域との重複を除き、国際データベース「OECD:Other Effective area-based Conservation Measures」として国際データベースに登録されます。

事業者、民間団体・個人、地方公共団体による様々な取組によって、生物多様性の保全が図られている区域が自然共生サイトの対象となります。

これまでに大崎耕土内で登録された3か所の自然共生サイトを紹介します

## 2. 大崎耕土内の自然共生サイト

### 1) 旧品井沼周辺ため池群

申請者：NPO 法人シナイモツゴ郷の会

場所：大崎市鹿島台

面積：10ha



### サイト概要

宮城県大崎市鹿島台北部の里山に点在し、古くから農業者に守られて、多様な生物が生息しています。

絶滅危惧種 シナイモツゴは里山の南方2~6kmに位置する旧品井沼を摸式産地とし、1993年に里山のため池群で60年ぶりに再発見され、同時に絶滅が危惧される絶滅危惧種4種の魚類の生息が確認されました。

その後、ため池群へ外来種が侵入したが、20年前からオオクチバスを、10年前からアメリカザリガニを継続して防除した結果、多くの在来生物が増加し、現在も豊かな生態系が維持されています。

魚類以外に、魚食性の鳥類、カエルなどの両生類、二枚貝類、トンボ類、トビケラ類、カゲロウ類、甲虫など水生昆虫が生息しています

## 2) 沢田上地区の居久根・周辺水田

申請者：沢田上地区居久根景観保全会

場 所：大崎市古川

面 積：61.4ha



### サイト概要

宮城県大崎市古川地域の低平地に位置し、23戸の屋敷林「居久根」と水田で構成されています。

世界農業遺産に認定された大崎耕土の特徴的な景観である、居久根を含む水田農業景観を有しています。1戸あたりの約5000㎡の敷地が主にシギやタケなどの屋敷林に囲まれています。

1軒の居久根で165種の植物が生育しています。ニホンアマガエルや、ハグロ トンボなどが水田と居久根とを行き来しています。古い家庭で12代、300年以上にわたって屋敷林を維持・管理をするとともに、水田農業を営んできました。

サイト内の水田には、冬になるとマガンやシジュウカラガンが飛来しています。

## 3) 荒沢湿原池沼群

申請者：加美町

場 所：加美町

面 積：11.3ha



### サイト概要

荒沢地域は、火山と河岸段丘でつくられた原地形が、大規模な地すべりにより特有の地形や水系が展開されたことに伴い、湿地が多数形成されています。

沼にはシダ植物や水生植物など希少な種が生育しており、特にトンボ類の希少種の一部は宮城県内で唯一の生息地となっています。